



守屋君ノ拙著批評ニ答フ(2)

津村, 秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 14(6):927-938

(Issue Date)

1913-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052040>



守屋君ノ拙著批評ニ答フ (其二)

神戸高等商業學校教授

津 村 秀 松

六

複稅率制度ハ、稅率變更ノ危險アルガ故ニ、不安ナリトノ私ノ說ニ對シ、守屋君ハ、ソレハ些細ナコトナガラ水掛論デアルトシテ言ハレルニハ、國定協定稅率制度ニテモ、現在ノ協定稅率ハ先ヅ確定的ノモノト假定シテモ、明日ニ至リ、何レノ國ト如何ナル協定ヲナスヤ計リ難ク、此點ヨリ見レバ、隨分不安ナルモノト言ハチバナラヌ云々ト斷ゼラレテ居ル。成程、國定協定稅則ニ於テモ、協定稅率ノ追加モ起レバ、又變更モ起ル。ソレハ決シテ起ラナイ動カナイト誰モ言イハシナイノデアル。唯協定稅率ハ該協定條約有効期間動カス可カラズ、變更スルヲ許サレナイモノデアツテ見レバ、其ノ之レアル國定協定稅則ハ、其ノ之レナキ複關稅則ニ比シテ、通常比較的ニ安全ナモノデ、稅率變動ノ危險少ナキモノデアルト云フノデアル。一方ノ意思デ

隨意ニ改廢シ得ルモノト、雙方ノ意思ノ合致ガナケレバ、一定ノ期間改廢スルヲ得ザルモノト、孰レガ比較的ニ確定デアリ、不確定デアルカハ、識者ヲ俟タズシテ明カナル所ダト思フ。勿論、例外ノ場合ヲ舉グレバ、ソレハ大抵ノ問題ニ就テ、反證ヲ得ルニ難クナイ。然シ私ハ常ニ一般ノ上カラ論ジテ居ルノデアアル。

守屋君ハ、複關稅則ノ方ガ、稅率ヲ豫知スル時期永クシテ、安全デアルト言ハレテ居ルガ、其ノ然ルアル所以ヲ、法律ノ根據ニ置カル、ニ至ツテハ、寧ロ滑稽ニ近イモノデアアル。一國ノ法律ノ上ニノミ立ツ國定稅則デアルカラ、複關稅則ハ、稅率變更ノ場合ガ多イノデアアル。ソシテ其ノ稅率變更ノ場合ガ多イコト、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、自國ノ產業ノ變遷ナリ、自國ノ財政ノ必要ニ應ジテ、隨時隨意ニ一切ノ稅率ヲ變更シ得改正シ得ルコトガ、一面カラ言フト、複關稅則ノ妙味ノ存スルトコロデ、從テ又其ノ長所トナルノデアアルカラ、萬一複關稅則ニシテ、其ノ既定ノ稅率ナリ稅目ガ、確固不動ノモノトナルトキハ、其ノ確固不動ノモノタル程度ニ應ジテ、其ノ妙味ガ減ジ、其ノ長所ヲ沒却スルモノデアアル。極端ニ言フト、然ラバ敢テ複關稅則ヲ採用スル必要ナイトイフコトニモナル。之ハ守屋君ニ於テ、大抵悟ラレテ居ルコト、モ思フ

ガ、念ノ爲メ、一應説明ヲ試ミル。

複關稅則ナルモノハ、豫メ一國將來ノ關稅率ノ上下兩端ヲ確定シ、明示シ置クモノデアルカラ、稅率ヲ打算シテ、事業ヲ計畫スル者ニ取リ、此上モナキ便宜アラシモ、ソレハ一旦定メタル最高稅率竝ニ最低稅率ガ、永ク一定不變ノマ、存續スルモノダト前提シテノ話デアル。複關稅則ニシテ其ノ實ヲ失ハザル限り、其ノ國ニ於ケル一切ノ關稅率ハ、最高稅率トハイハズ、最低稅率トハイハズ、皆悉ク國定稅率デアツテ、唯或ル條約國トノ間ニ、自國ニ於ケル國定稅率ノ最低ナルモノ（即チ最低稅率ナルモノ）ヲ、常ニ適用スルコトヲ約束スルニ過ギヌノデアアル。デアルカラ、條約締結後ト雖モ、自國ノ隨意ニ一切ノ稅率ヲ變更スルコトガ出來ルノデアツテ、唯如何ナル場合ニモ、自國ニ於テ最低ナル稅率ヲ適用サヘスレバ、ソレデ約束ガ濟ムノデアアル。斯ク必要ニ應ジテ、何時デモ、又如何ヤウニモ、一切ノ稅率ヲ變更シ得、増減シ得ルノ自由ヲ有スル一點コソ、正ニ複關稅則ノ妙味ノ存スル所ナレバ、其ノ之レアルハ、豫メ期セザルベカラザル所デアルガ、然シ斯ク一國ノ隨意隨時ニ一切ノ稅率ヲ變更シ得、増減シ得ルトイフ次第デハ、決シテ安固ナ稅則トハ言ヘス。又關稅ヲ豫算シ難イカラ、輸出入

商ヲ初メ、一般ノ事業家ニ取リ、決シテ安心ノ出來タ税則トハ言ヘヌ。成程、守屋君ノ仰セラル、通リ、税ノ設定、變更ニ關シテ、法律ノ根據ヲ要スル國ニ於テハ、復税率制度ノ方ガ豫知スル時期ガ長イカモ知レヌガ如何ニ前以テ知レテモ、其ノ前以テ知レテ居ル税ガ一旦定ツタ後、何時變更スルトモ増減スルトモ知レナイモノデハ、一向前以テ知レタ效能ガナイ豫知スル時期ガ永イカラトテ、決シテ安全デハナイハデアル。之ヲ要スルニ、確固不拔ナル税則ナドハ一ツモナイノデアツテ、又然ルアルモノトスルコト、決シテ策ノ得タルモノデナイノデアルガ、サリトテ無暗ニ變動スル虞ノアル税則モ、決シテ良好ナルモノデナイ、ソコデ其ノ中庸ヲ得タモノトシテ、私ハ國定協定税則ニ賛シ、之ヲ以テ複關稅則ニ優ルトモ劣ラヌモノダト斷ジタ次第デアル。

七

又守屋君ハ拙著第一三八頁ニ、複關稅率制度ハ對手國ノ稅率ヲ協定スルコトガ困難デアルトアルケレド、之ヲ反駁シ得ル實例ノ存スルコトハ、喋々スルマデモナイノデ、(中略)何モ複關稅率制度ヲ持シテ居ルカラ、此ノ目的ガ達セラレナイト云フ

道理ガナイト思フ」ト論ジテ居ル。此一節ニ就テモ亦私ハ批評家タル守屋君ノ責任上、今少シク精讀セラレタイモノダト思フ。多言ヲ弄スル必要ハナイ。私ハ守屋君モ引用セラレタル通り、第一三八頁ニ於テ論ズル所ハ、複關稅則デハ對手國ノ稅率ヲ協定スルコト困難。デアルトイフノデ、決シテ、對手國ノ稅率ヲ協定スルコト不可能。ダトハ言ハナイ。詳言スルト、國定協定稅則ヲ採ル場合ニ比シテ、複關稅則ヲ採ル場合ハ、協定ガ困難ダト言フノデアアル。複關稅則ヲ採ル場合ニモ、尙ホ協定國ノアリ得可キコトハ、其ノ前ノ一三七頁ニモ既ニ明ニ書テ居ルノデアアル。全部ヲ通讀セズ、精讀セズシテ、局部局部ノ拾ヒ讀ミノ批評ハ、甚ダ迷惑ニ感ズルノデアアル。

次ニ守屋君ハ拙著第一三九頁ニ、最低稅率ハ自國デハ最低稅率ト思フテモ、對手國デハ左様ハ思ハナイト云ハル、モ、協定稅率デモ矢張り其ノ通りデ、談判ノ際、自國側デハ種々審査ノ結果、之ヨリ引下ゲルコトガ出來ヌト決定シタ稅率デモ、對手國側デハ、最低ノモノトハ思ハナイコトガアルト云フコトハ想像シ得ラル、ノデアアル。故ニ對手國ノ關稅ヲ協定シヨウト思ウテ、最低稅率ヲ提議スルノト、自國ノ國定稅率ノ輕減稅率ヲ提議スルノト、大シタ差違ハナイ筈デアアルト言フコトモ出來

ル」ト述ベラレテ居ル。

甚ダ失禮ナ申分デハアルガ、此一節ヲ讀ムニ至ツテ、私ハ守屋君ノ複關稅則ナルモノニ關スル智識ヲ疑ハザルヲ得ナクナツチキタノデアル。守屋君ニシテ最低稅率ナルモノ、性質ト、協定稅率ナルモノ、性質トヲ充分ニ御了解ニナツテ、ソシテ後、今一應拙著一三九頁乃至一四一頁ヲ御精讀下サルレバ、自然御首肯セラル、コト、信ズル。此以上御答スルノハ、却テ不作法ダト思フ。ダカラ精シイコトハ申上ゲル必要ナイト思フガ、同一ノ誤見ニ基ク同一ノ誤斷ガ、其ノ次ギニ關稅戰爭ヲ論ズル一節ニモ現ハレテ居ルカラ、唯簡單ニ一言ダケ辯ジテ置ク。

複關稅則ノ性質上、如何ナル場合ニモ、又如何ナル對手國ノ讓步ガアツテモ、總テ其ノ最低稅率以下ナル稅率ヲ協定スル能ハザルモノデ、又最低稅率ト同一ナル稅率デモ之ヲ確定ノモノトシテ約束スルヲ許サヌモノデアル。デアルカラ、最低稅率ヲ主張スルコトハ、之ヲ主張スル國ニ取ツテ都合宜シキダケソレダケ對手ノ國ニ取ツテ不都合千萬ナルモノトナルノデアル。コノ好都合アルガ故ニ、複關稅則ヲ採用セントスル國アルノデアルガ、又コノ不都合アルガ故ニ、複關稅則ナルモノガ、兎

角行キ惱ムノデアル。其ノ極關稅戰爭ノ如キモ、起リ易イ勘定ニナルノデアル。成程、協定主義ヲ採ツテモ、其提供スル協定稅率ナルモノガ、對手ヲ満足セシメ得ヌモノデ、對手國ヨリ見レバ、最低ノモノト思ハレナイ程ノモノデアルコト、猶ホ複關稅則ノ場合ニ於ケル最低稅率ノ如キモノアルニ相違ナイ。ガ然シ、左様ナ場合ニ、複關稅則デアルト、對手國ガ屈服セナイ限り、遂ニ談判破裂トナル外ナイノデアルガ、國定協定稅則デハ、協定ヲナス上ニ就テ、立法部其ノ他ノ事前又ハ國ニヨツテハ事後ノ束縛モナイカラ、更ニ一步ヲ讓ルコトニ依テ、複關稅則ノ場合ニハ免カル、能ハザル談判ノ破裂ヲ免カル、コトガ出來ル。假令當初自國ニ於テ種々審査ノ結果、之ヨリ引下ゲルコトガ出來ヌト決定シタ稅率デモ、對手國ニシテ自國ノ主張ニ應ジ更ニ一步ヲ讓ル場合ニハ、自國モ亦之ニ對スル報償トシテ、更ニ一步ヲ讓ルコトノ出來ヌトイフ道理ハナイ。此ノ如キ相互對等ナル讓歩ヲ肯ゼナイトイフ國ハ、恐ク何レニモアルマイ。是程ノ正當ナル融通サヘ附カナイトイフ外交ハ實全ク外交デナイ。斯クノ如クニシテ、對手國ノ讓歩ノ程度ニ應ジテ、自國ノ讓歩ノ程度ヲ定メ、又定メラル、ガ故ニ、條約談判ニ方ツテ、常ニ當局者ヲシテ自由手腕ヲ振ハシムルノ餘地存スルコトガ、協定主義ノ生命ノ存スル所デ、從テ又其ノ價值存スル所デアル

ノデア。ル。守屋君ノ如ク、協定主義ヲ採リナガラ、如何ナル場合ニモ、一步モ引クコトノ出來ナイ、協定税率ヲ假想スルトイフコトハ、之レ初カラ協定主義ナリ協定税率ナルモノ、眞意義ヲ解セナイ人ノ言ダト謂ハチバナラス、左様ナ少シモ融通ノ利カナイ國定協定税則ヲ假想スレバ、ソレハ其ノ實單純ナル國定税則若クハ複關税則ト少シモ變リハナイノデ、從テ又關税戰爭ノ危險モ、複關税則ト少シモ變リハナイトイフ守屋君ノヤウナ論斷ガ附クデアラウガ、其ノ實決シテソウデナイノデア。ル。デア。ルガ、複關税則トナルト、對手國ガ如何ニ自國ニ有利ナ讓歩ヲ以テ迎ヘテモ、之ニ應ジテ一步デモ最低税率以下ノ税率ヲ定ムルコトガ出來ナイノデア。ル。最低税率ト同一ナル税率デモ、之ヲ動カサヌモノトシテ約束スルコトサヘ、一切出來ヌノガ、複關税則ノ本質デア。ルノデア。ル。左様ナ譯デア。ルカラ、自國ガ世界獨歩ノ強大國デア。ルトカ、對手國ガ自國トノ通商關係ヲ絶ツコトヲ切ニ恐ル、場合デア。ルトカ、若シクハ對手國ガ成程之ハ最低税率デア。ル、名實相適フタル安イ低イ税率デア。ル、コレ位ノ税率ヲ以テ甘ズルノナラバ、相當ノ讓歩ヲシテモ損ハナイト思ハル、位ノ最低税率デア。ル場合ノ外ハ、容易ニ談判ガ纏ラナイデ、動モスルト、關税戰爭ニヨツテ勝負ヲ決スル外ナイコトニナル。又對手國ヲシテ得心セシムル位實際安イ

低イ最低稅率ヲ以テ甘ズル位ナラバ、何モ態々複關稅則ヲ採ツテ、高手飛車ト出カケナクトモ、協定主義デモ、容易ニ自國ノ欲スルトコロヲ遂ゲ得ルノデアル。斯様ナトキニ關稅戰爭モ何モ起ラナイガ、ソレハ協定主義ニ依ツテモ亦然リデアル。斯様ニ低率ナ複關稅則ハ、寧ロ稀有デアルカラ、從テ又複關稅則ノ方ガ、關稅戰爭ノ危險ガ多イトイフ論斷ニナルノデアル。論ヨリモ證據、今日マデ數アル關稅戰爭ノ實例ガ、國定協定稅則ノ場合ニハ頗ル稀デ、複關稅則ノ場合ニ甚ダ多イコトヲ御承知願ヒ度イ。

八

更ニ關稅戰爭ニ關シ、述ベタイコトガアル。ソレハ一國ノ重要輸出品ガ其ノ國ノ特產物デナイ以上、關稅戰爭ニ際シ、對手國ヲ死地ニ陷ラシムルコト困難デアルトイフ點ニ就テアル。斯ク言フノハ、ソレハ恰モ武器ニ一種特別ノモノガナイカラ、戰爭スレバ敗北スルトイフノト同一デ、穩當デナイトノ守屋君ノ御叱デアルガ、關稅戰爭ニ際シ、其ノ國ノ重要輸出品ガ特產物デナイトイフコトハ、武器ニ一種特別ノモノガナイノデナイ、銳利ナル武器ヲ備ヘテ居ナイコトニ當ルノデアル。他ノ事情ガ總テ同一デアルトスレバ、武器ノ劣ツタ國ハ、武器ノ優ツタ國ニ破ラレル位ノ

コトハ三尺ノ兒童ト雖モ、先刻承知シテ居ルコトダト思フ。ソシテ其ノ場合ニハ、其ノ特產物が對手國ノ生産又ハ消費上ノ必需品デナケレバナラヌコトモ、守屋君ノ御注意ヲ受クルマデモナク、現ニ一四四頁ニモ書テアルノデアル。

守屋君ハ日本ト各國トノ關稅戰爭ヲ假想シテ、孰レカ優勢ノ地位ニアルカヲ決定スルコトハ、極テ重要ナル問題デアルカラ、僅カ一頁位デ御免ヲ蒙ラナイデ、各國一々別々ニ觀察シ、說明シ、論斷セヨト注文セラレ、殊ニ日米間ノ關稅戰爭ニ就テハ、我輩ニ充分ノ調査モアリ意見モアルゾト披露セラレテ居ル。成程、日本ニ關スル關稅戰爭問題ヲ僅カ一頁位ノ說明ニ止メタノハ不充分デアラウ。ガ然シ、日米戰爭未來記「ヤ」英獨戰爭未來記「ジャ」アルマイシ、數々アル國々ニ對シ、一々關稅戰爭未來記ヲ說ク譯ニハ行カナイト思フ。說ク可キ必要アリトシテモ、トテモ我々學究ニハ左様ナ說明ニ必要ナル材料ヲ得ラレナイノデアルカラ、一々之ヲ國民ニ知ラセ教ユ可キ必要アリト主張セラレ、又之ニ關スル研究ノ材料モ抱負モアルト披露セラレタ守屋君ニ御願申シテ、先ヅ日米關稅戰爭論カラ、順次各國トノ關稅戰爭談ヲ、是非承リタイモノデアル。ソレヲ承リサイスレバ、私モ亦及ズナガラ、ソレヲ一々批評シテ、御注文通り、僅カ一頁ノ記述ニ止ル第一四四頁ノ部分ヲ、引キ延シテ、五十頁ニモ、

百頁ニモ増補スルノ光榮ヲ有シ得ルコト、思フ。

序デダカラ一言スル。守屋君ノ拙著批評ハ詳細ヲ極テ居ル點ニ於テ、私ハ感謝スル。是程詳密ナ批評ハ、是マデ我國ニアマリ他ニ類ガナイカラデ、新刊批評ノ盛ンナラザル我經濟學界ニ多大ノ刺戟ヲ與フルモノデアルコト、已ニ前ニ述ベタ如クデアル。然シ批評者モ亦時ニ著者ト同一ノ立場ニ立ツテ考ヘテ貰ハチバナラヌコトガアル。デナイト折角ノ批評モ、著者ノ反省ヲ促スニ至ラナイデ、何トナク無理ナ注文ヲスルヤウナ氣持ガスル。前項ノ關稅戰爭ニ關スル注文ノ如キモ、此一種デハアルマイト思フ。之ニ比スレバ尤モダト思フ所モアルガ、守屋君ハ又私ガ關稅定率法ニ於ケル各條項ニ就テ、一々其規定ノ理由、根據、政策ヲ説明シテ居ナイノハ——私ハ此條項ヲ一括シテ一箇所ニ於テ批評シテ居ナイガ、其內主ナルモノヲ適當ト信ズル箇所ニ於テ、上下兩卷ニ亘テ、所々デ説明モシ、批評モシテ居ルノデアルガ——不親切極マルモノダト批難セラレテ居ル。又關稅定率法附屬稅表ニ舉ゲラレテ居ル大目六百四十七種、細目千五百五十七種ノ有稅品無稅品ニ就テ、何故一々其ノ之レヲ設ケタル理由、其ノ本邦市場ニ於ケル地位、製產原地ニ於ケル生産ノ狀況等ヲ詳論シナイノデアルカト叱責セラレテ居ル。其ノ外、各國トノ新條約ニ就テノ批評

ノ所モ、アレダケデハ甚シク簡單ニ失スルモノダト責メ附ケラレテ居ルガ、是等ノ批難モ、叱責モ、批評家トシテハ正當ナル申分デアルカモ知レナイガ、著者トシテハ御無理御尤ノコト位ニシカ感ゼラレヌ。是等ノ注文ニ一々應ズルトキニハ、ソレハ或ハ完全ナル商業政策ナル一書ガ出來ルカモ知レナイガ、材料ノ乏シイ私共ニハ、今ノ所、平ニ御免ヲ蒙ル外ナイノデアル。

九

話ガ少シク餘談ニ奔ツタガ、復タ元ニ返ツテ、國定協定主義ノ國定稅率ハ、複稅率主義ノ最低稅率ヨリ、理論上、高率デアル可キ筈ダトイフ守屋君ノ論斷ニ就テ、反省ヲ促シタイ。之ハ一體ドウイフ理論上カラ、斯様ナ論斷ガツクモノデアるか、單ニ理論上トイフ丈ケデハ分ラナイ、相當ノ説明ヲ要スルコトダト思フ。國モ時モ違ツテハ、理論上比較ガ出來ナイカラ、一定ノ國ガ、一定ノ時ニ國定協定稅則ヲ採ラウカ、將又複關稅則ヲ採ラウカト思案スル場合ニハ、複關稅則ニ於ケル最低稅率ト同一ナル國定協定稅則ニ於ケル國定稅率ヲ制定シ得ナイトイフ道理ガナイ。理論上カラ言ヘバ、國定稅率ト同一ナル協定稅率ヲ生ゼシメ得可キモノデアるかトヲ知ツタナラバ猶更ラ守屋君ノ言フヤウナ理論ガ成立ヌ筈デアル。(未完)